



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～新型コロナウイルスについて～

新型コロナウイルスの第5波は9月中旬に収束し、東京都では9月30日に緊急事態宣言が解除され、10月24日までリバウンド防止期間となりました。ウイルス干渉の観点からすると、コロナウイルスが収束することによって他のウイルスが活発化する事が推測されます。そのためか10月に入って福生市内では、昨年以來ほとんど発生していなかった手足口病やヘルパンギーナが出てきました。

～インフルエンザワクチンについて～

10月に入りインフルエンザワクチン予防接種が始まりました。この前の冬は世界各地でインフルエンザはほとんど報告されませんでした。南半球のオーストラリアでも今年8月冬のインフルエンザ患者数は極めて少数でした。しかし、北半球で今年夏ごろバングラデシュでB型、インドでA型(H3N2)が流行したことを考えると、今冬は日本でもインフルエンザが出て来る可能性があります。コロナウイルス6波の勢が強くなってウイルス干渉されれば、インフルエンザが前期と同様に抑制されるかもしれません。コロナVSインフルエンザどちらが冬を制するかわかりませんが、小児にとってはインフルエンザのほうが罹患すると重症化リスクが高いですので、予防接種可能な方は接種しておきましょう。

～新型コロナワクチン副反応について～

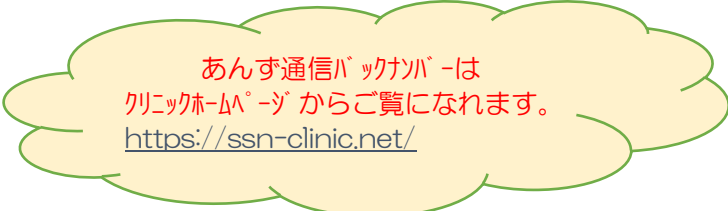
厚生省から10月1日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係は不明ですが9月24日までに累計1233人の方が死亡、重篤副反応が4236人と報告されています。ワクチン接種によって重症化予防、死亡率低下が期待されていますが、ワクチン接種が進んでいるイスラエルや英国、シンガポールの状況を見ますと感染者は再び増加しており、時間経過とともに感染予防効果は低下するとみられています。日本においては、昨年の流行初期から一貫して健康な30代以下の人ではほとんど重症化する事がほとんどありません。接種後、若年男性に心筋炎や心膜炎の副反応が5万人に1人程度認められていることも踏まえ、ワクチン接種は慎重に判断したいところです。

文責：清水マリ子

表：9月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌	93
2	胃腸炎(ノ1含む)	60
3	RSウイルス	10
4	伝染性膿痂疹(ピピ)	6
5	突発性発疹炎	5
6	水ぼうそう	3
7	手足口病	2
8	おたふくかぜ	1

※コロナ流行中、当院では感染症検査は防護服着用し必要最低限実施しています。



～あんずからのお知らせとお願い～

- ★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックの予約ページかホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
- ★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

